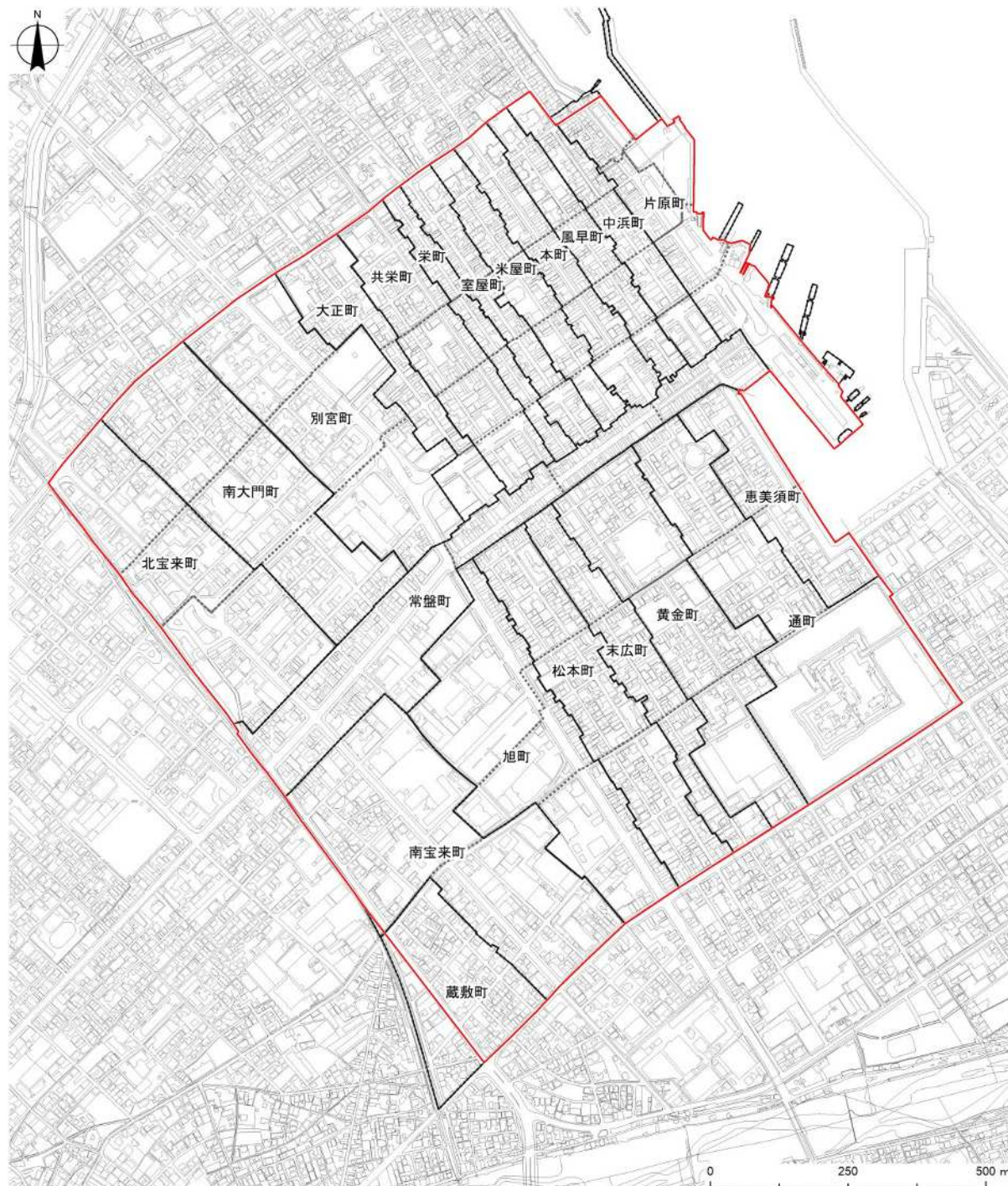


2. 中心市街地の現状

(1) 対象範囲

現状分析の対象となる中心市街地の範囲は、以下に示す区域（面積約 157ha）とします。

■ 中心市街地の範囲

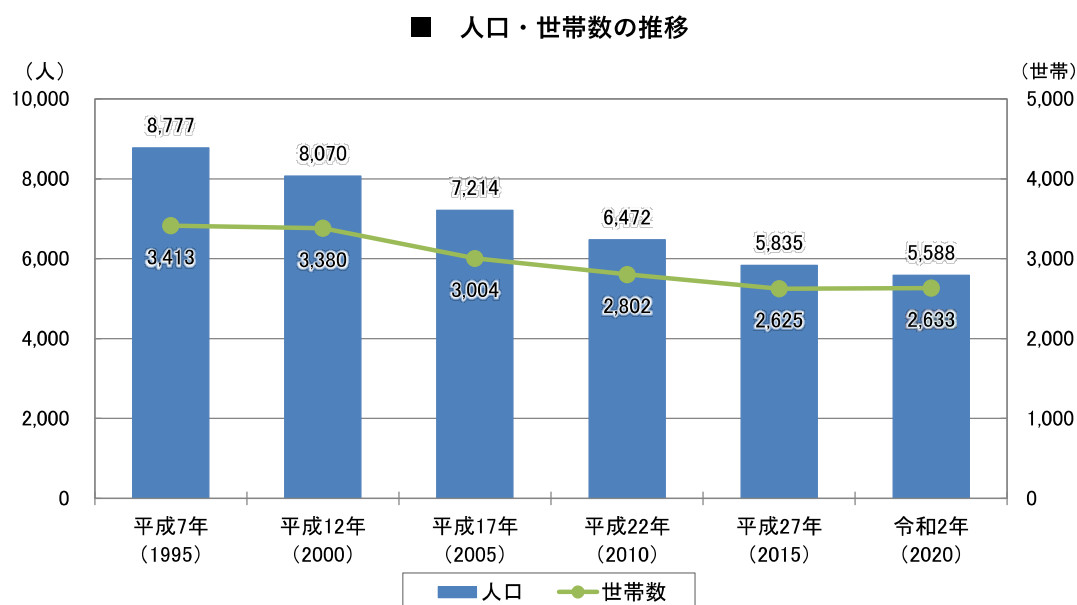


※中心市街地の集計等は上記の町を対象にしています

(2) 人口・世帯等

① 人口・世帯数の推移

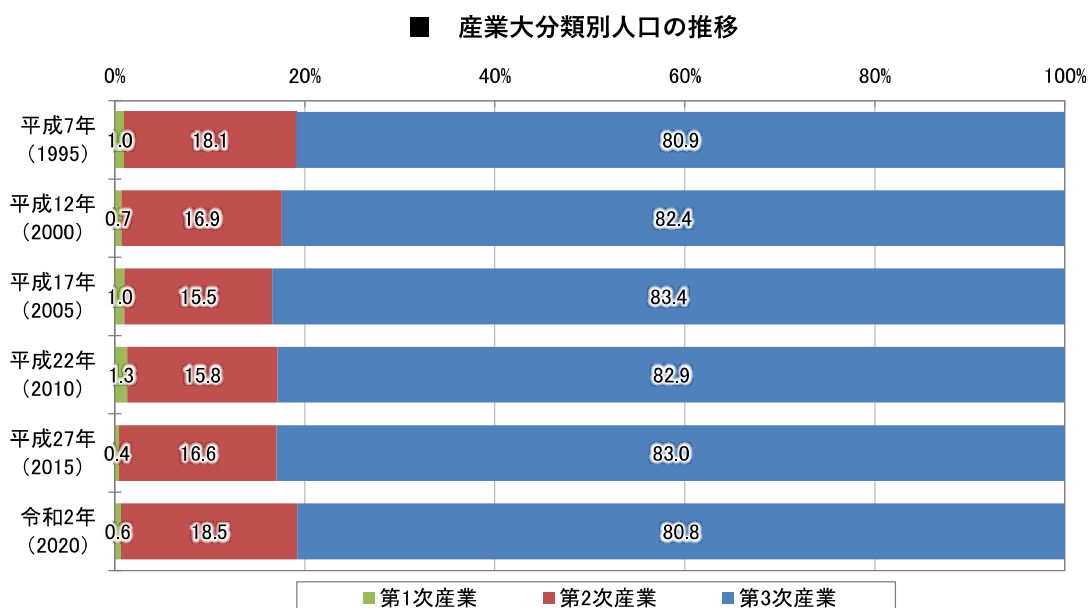
中心市街地における人口・世帯数の推移をみると、人口・世帯ともに減少傾向が続いており、令和2年（2020年）の人口は5,588人、世帯数は2,633世帯となっています。市全域と比較すると、中心市街地の減少割合が大きくなっています。



資料：国勢調査

② 産業大分類別人口

産業大分類別人口の推移をみると、令和2年（2020年）における第1次産業従業者は0.6%、第2次産業従業者は18.5%、第3次産業従業者は80.8%となっています。市全域と比較すると、第3次産業の従事者の割合が多い傾向にあります。

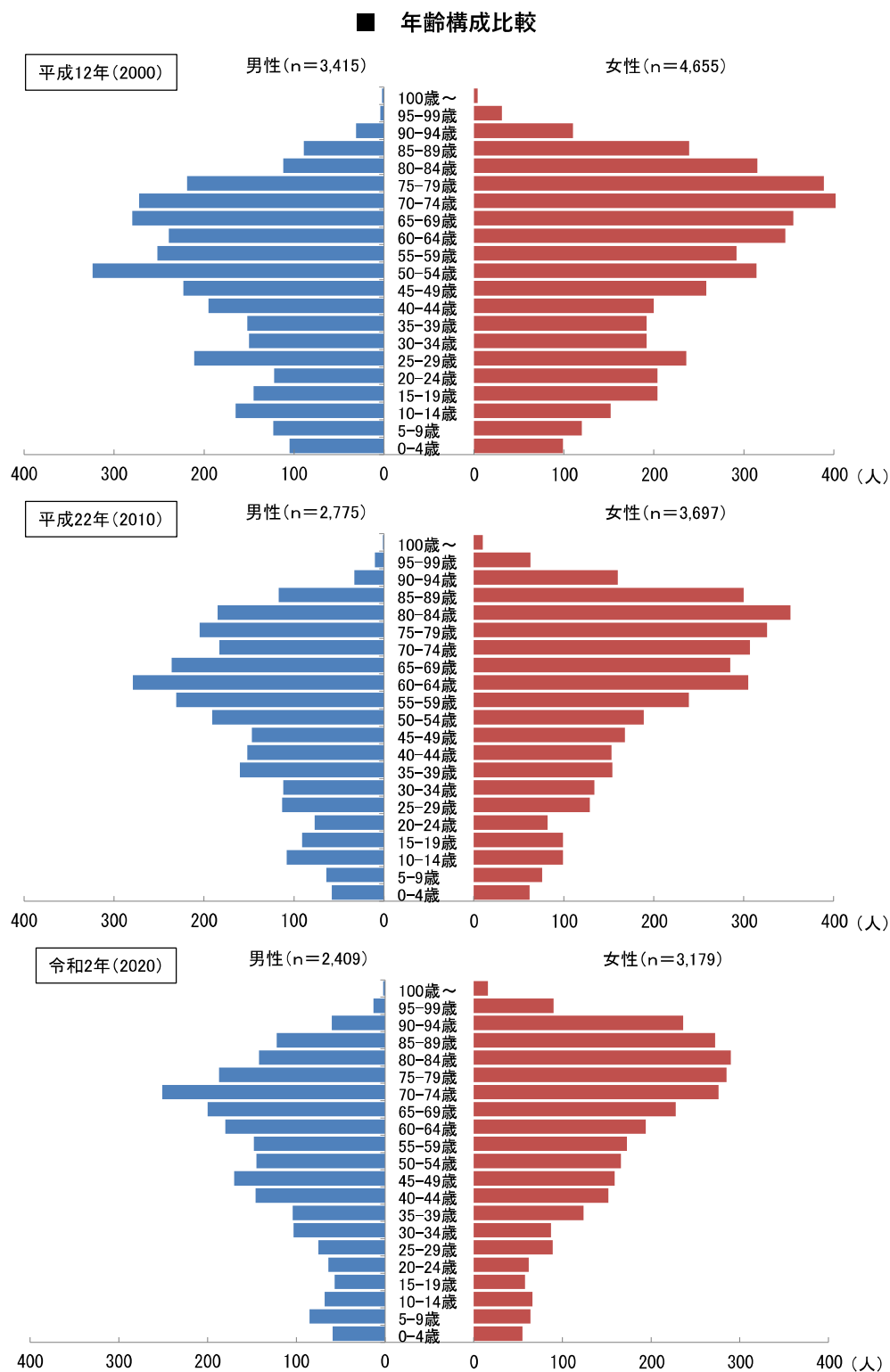


資料：国勢調査

③ 人口構成比

中心市街地の人口構成を人口ピラミッドの変遷からみると、平成12年（2000年）から令和2年（2020年）の各年ともつぼ型となっており、特に14歳以下の年少人口が減少傾向にあります。

また、女性の老年人口（65歳以上）の割合が比較的多くなっています。

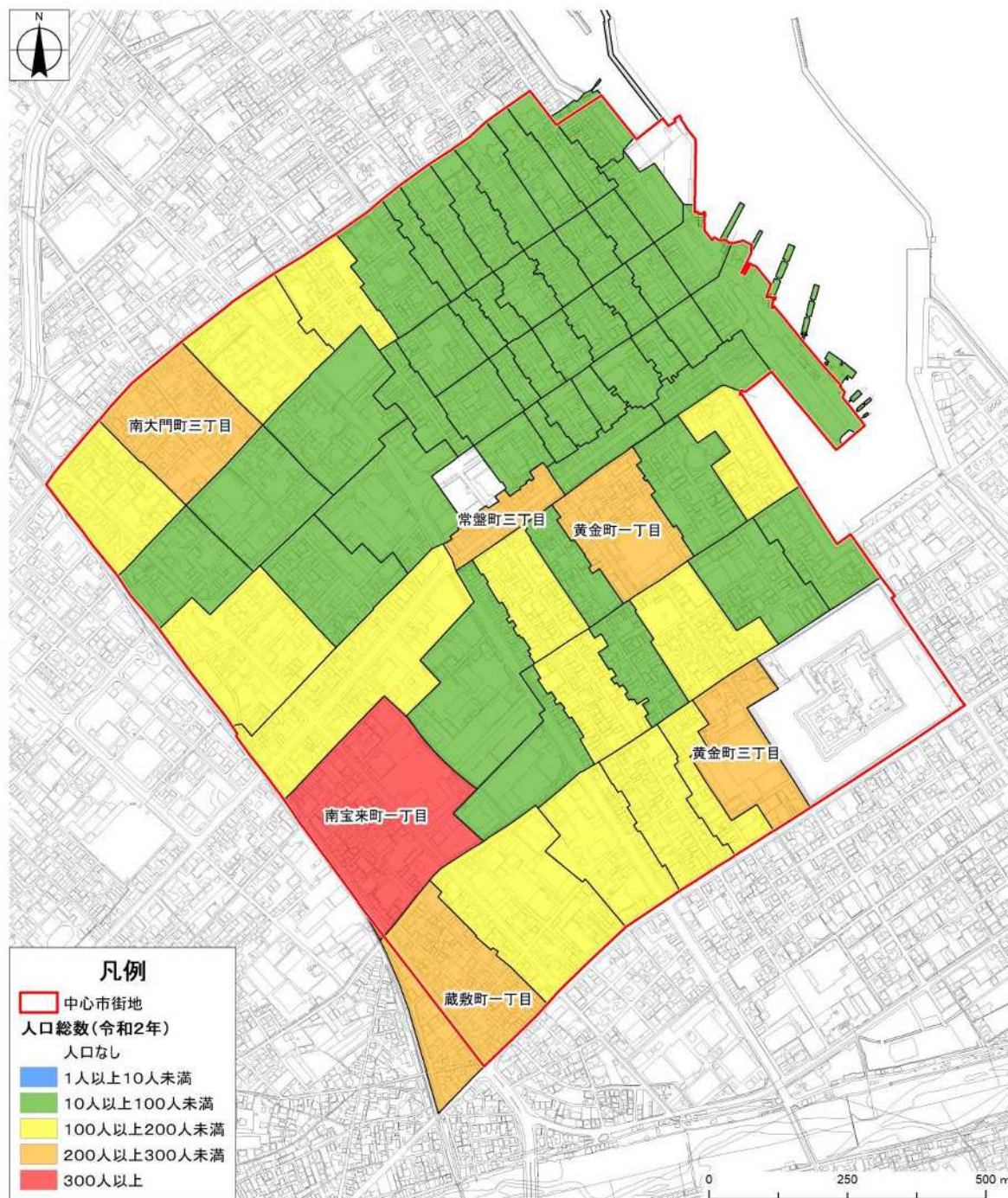


資料：国勢調査

④ 人口分布の推移

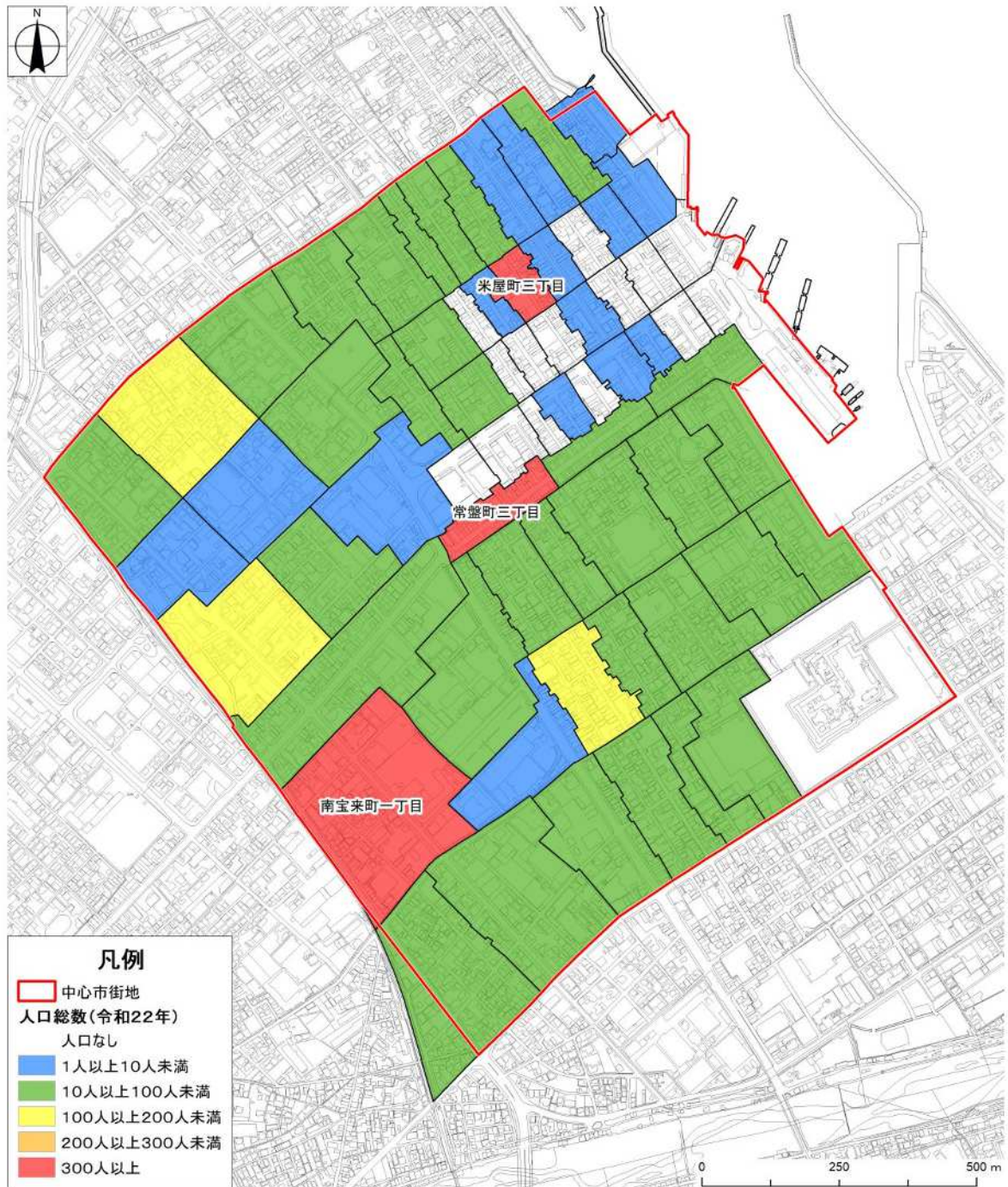
令和2年（2020年）における中心市街地の人口分布をみると、南宝来町や黄金町、蔵敷町、常盤町、南大門町等の一部エリアで比較的多くなっています。令和22年（2040年）には、米屋町や常盤町の一部のエリアで人口が増加する一方で、10人未満のエリアも増加すると予測されています。

■ 人口の分布（令和2年（2020年））



資料：国勢調査

■ 人口の分布（令和 22 年（2040 年））

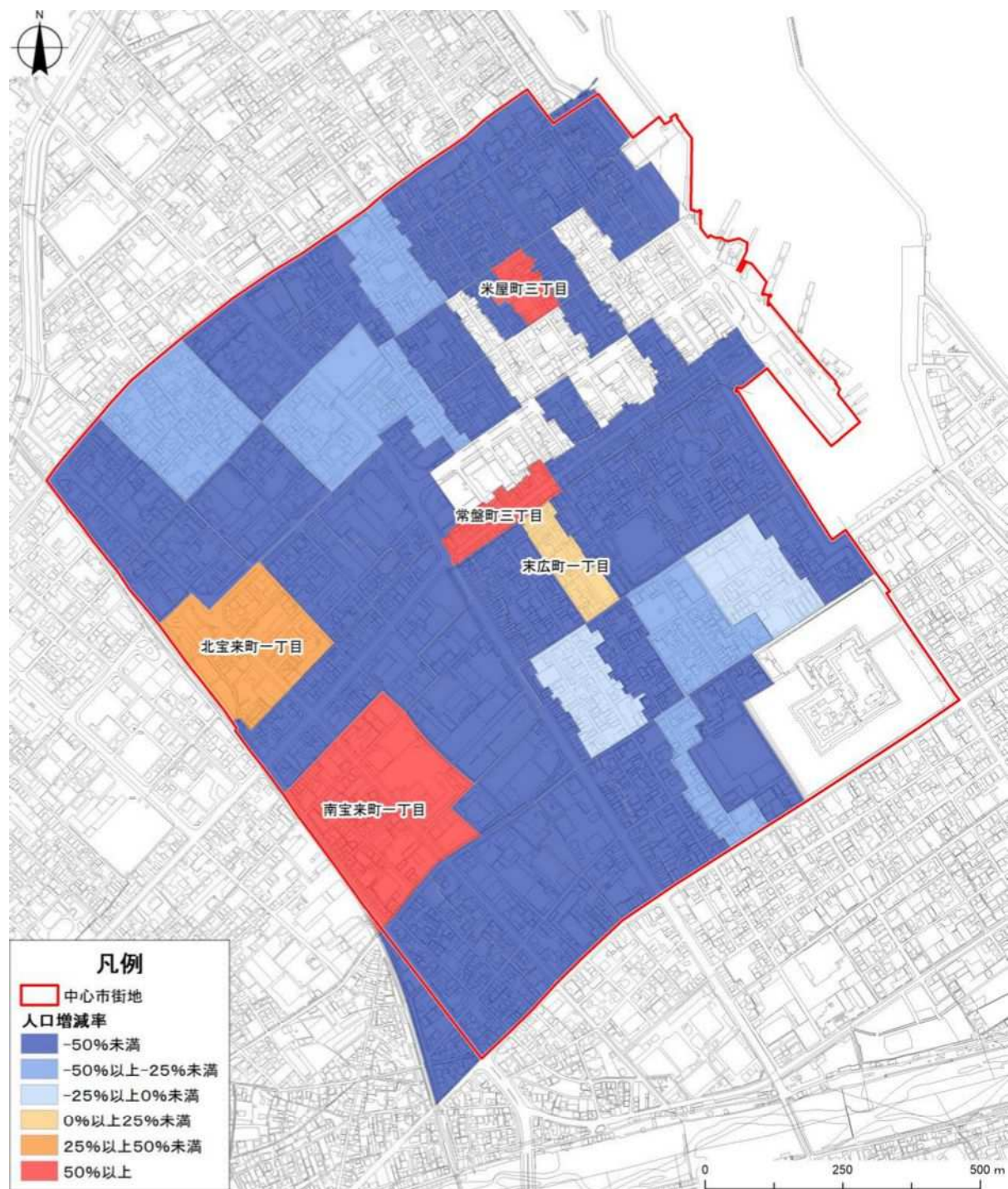


資料：国勢調査

⑤ 人口増減率

令和2年（2020年）から令和22年（2040年）における人口増減率をみると、南宝来町や常盤町、米屋町、北宝来町等で人口増加がみられるものの、その他のエリアでは人口減少の見込みとなっています。

■ 人口増減率（令和2年（2020年）から令和22年（2040年））

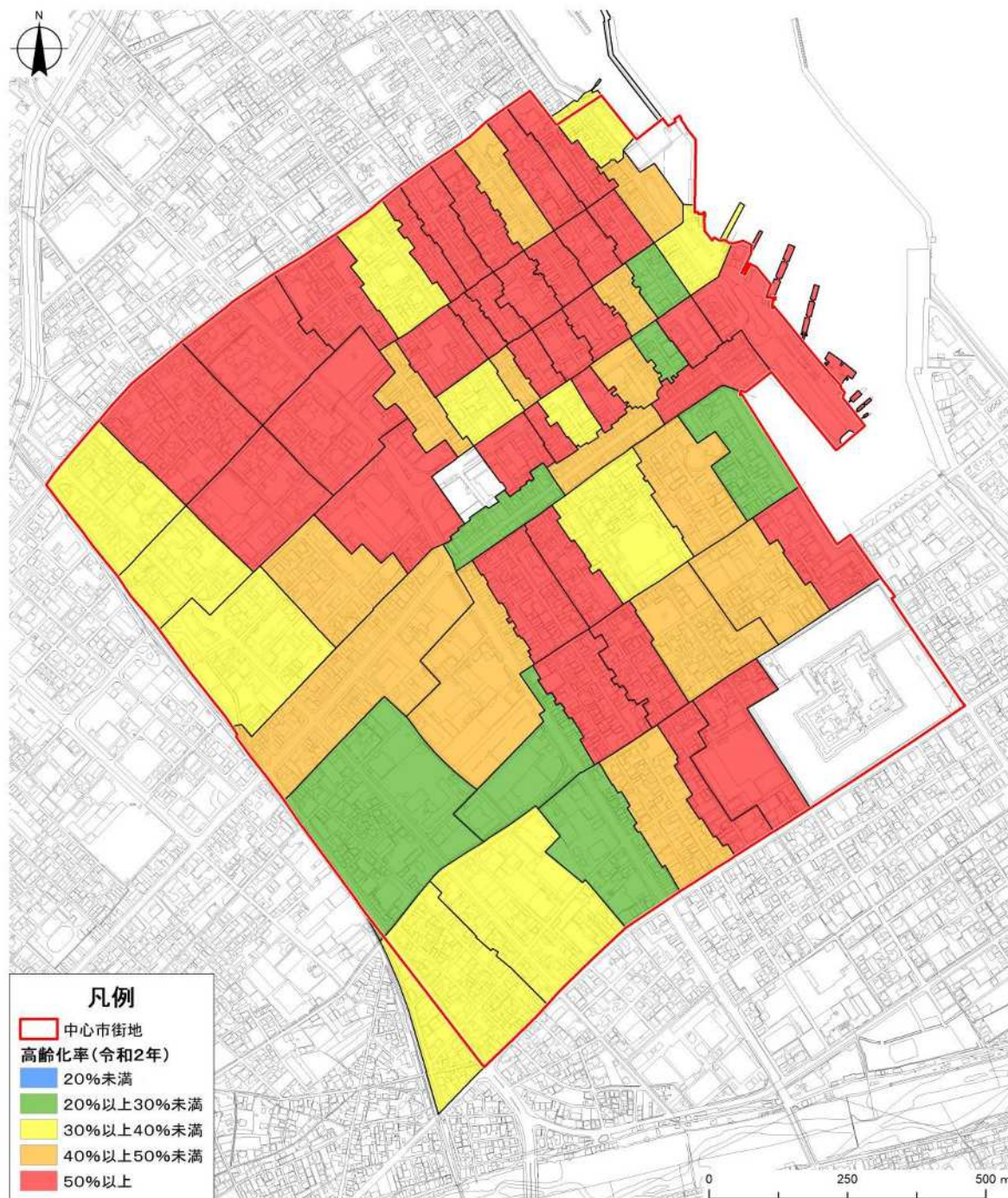


資料：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」

⑥ 高齢化率分布

令和2年（2020年）における中心市街地の高齢化率分布をみると、多くのエリアで40%を以上となっています。

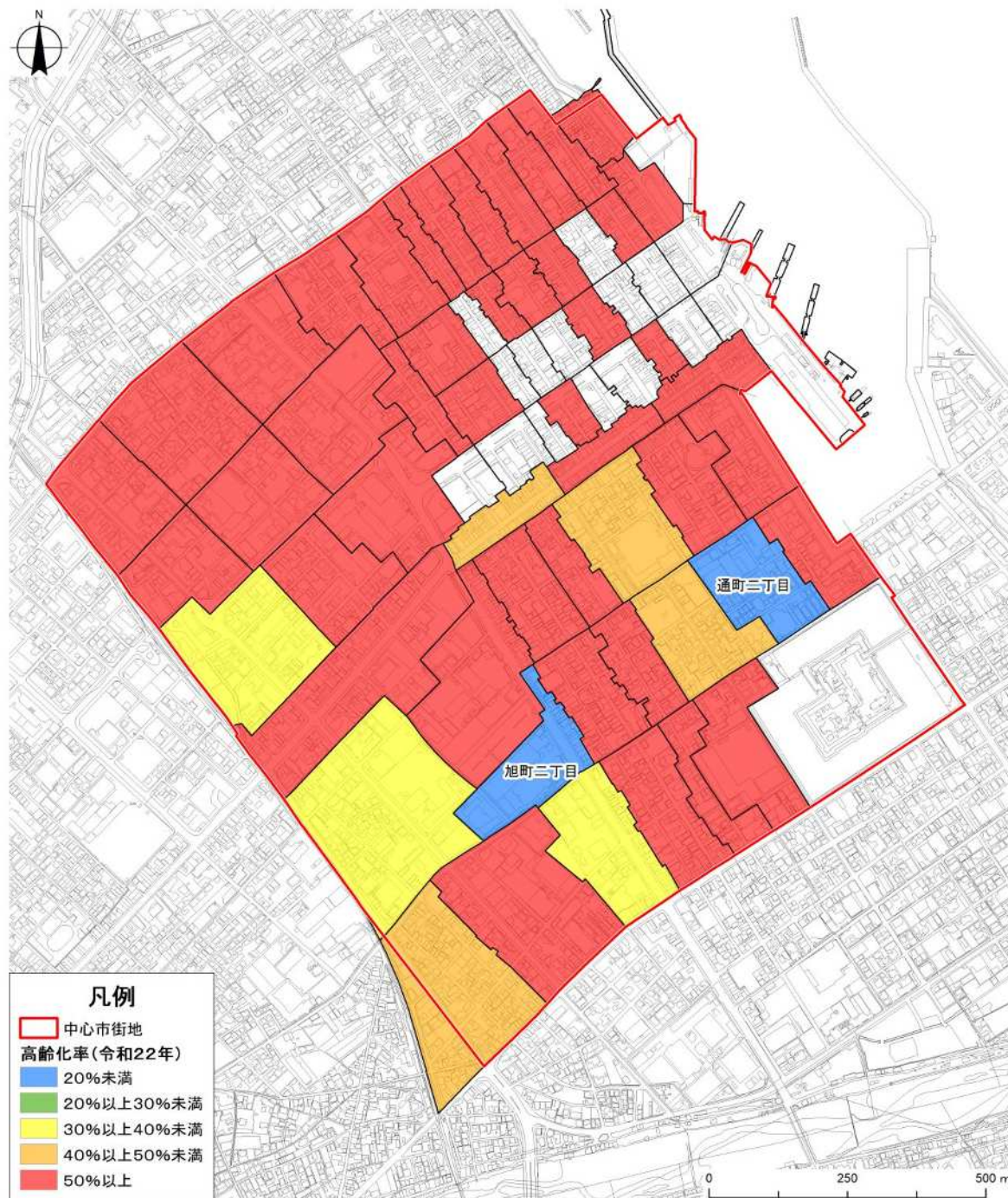
■ 高齢化率分布（令和2年（2020年））



資料：国勢調査

令和 22 年（2040 年）には、中心市街地のほとんどが高齢化率 50%を超えると予測されている一方で、旭町や通町の一部のエリアでは高齢化率が 20%未満になると見込まれています。

■ 高齢化率分布（令和 22 年（2040 年））



資料：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」